

人間発達学科人間発達学専攻 主要科目の特長

【発達心理学】

発達心理学は、生涯発達という視点から、時間の経過とともに人の心身と身体に生じる変化の過程について学ぶものである。本講義では、乳児期から幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童生徒及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）に焦点を当て、発達に関する基礎的な知識・理論を学習する。また、これらの知識に基づいて、近年教育現場で問題となっている発達の障害などについても理解を深めていく。

【教職概論】

本講義は、教師をめざす学生に対して、教職の専門性について学生自ら思索させると同時に、自らの教師という職業への適性と情熱を向上させることを目的としている。そのため、単に教職についての知識を得るためだけでなく、教員や他の学生と意見交換することにより、専門性を生かした教職、人間教育に根ざした教職の在り方について考えることを求めている。授業内容として、教職の意義、教員養成、学校の組織と運営、教師の仕事、教員の任用・サービス・研修などを講義している。

【国語科教育概論（書写を含む。）】

国語科教育固有の目標である「生きてはたらくことばの力の育成」達成のための授業づくりの基礎理論としての①国語科教育の意義・目的、②国語科教育の内容・構造、③国語科教育の今日的課題、そして、授業づくりの基本的要素としての教材研究の内容と方法について講義する。講義の方法は、受講者が主体的に受講できるよう、「書く」「読む」「話し合う」「発表する」「比べる」「評価する」などの多様な言語活動を取り入れる。

【算数科教育概論】

小学校の算数科授業を行うための基底となる算数科教育に関する基本的な内容について学ぶ。授業は、我が国の算数科教育の歴史や指導上の課題、小学校算数科の目標及び内容、各学年の目標及び内容、指導計画の作成と内容の取り扱い、これからの算数科教育の方向性から構成している。これらの授業を通して、今日求められている算数科教育の在り方、指導者の役割について考えを深める。

【理科指導法】

小学校における教科「理科」の授業づくり及び指導方法に関する基礎・基本を、演習を通して学修する。具体的には、既修の「理科教育概論」をもとに、指導する内容の系統性や教材化の方法、児童が主体的に問題を解決する授業づくりの在り方、授業の形態や評価方法などを体験的に習得する。また、一つの単元の学習指導案を実際に作成する活動も行う。さらに、それをもとに模擬授業を行い、授業研究の在り方についても学修する。

【図画工作】

本授業は、表現活動、制作活動を実際に行い経験することを通して図画工作科の教科内容を学び、児童の視点と教師の視点をクロスさせながら図画工作の学習活動の成立について学ぶことを目的とする。授業は演習形式で行い、図画工作における材料・道具を体験し、共同作業による「造形遊び」などを体験する。そして、授業内において、随時、図画工作科の授業実践例、美術の広がり映像資料等で紹介し、ディスカッションを行うことを通して今日的な図画工作科の授業の在り方を学習するものである。

【体育】

幼児体育及び学校体育を展開する上での概念や動きのポイントを学修。また、実技を通して幼児期・児童期に身に付けるべき、運動技能の基礎・基本さらには安全について探っていくものとする。さらに、幼児期から児童期における動きの系統性を中心に、青年期・壮年期へと成長・発達の過程をふまえた体育の理論的追求と生涯体育の在り方等について、まとめていくこととする。

【器楽基礎】

子どもの感性と表現を豊かにするために、幼児教育・小学校教育の現場で必要とされる、ピアノ演奏技術を修得することを目的とする。ピアノ演奏のための基礎技術を身に付けるとともに、ピアノ実技演習を通して音楽的な基礎知識（コードや簡単な楽典等）を学び、表現力を養うことを目標とする。習熟度によって3つの段階（グレード）に分類し、個々の演奏能力に応じた課題曲を学習する。

【道徳教育指導法（初等）】

本講義では、小学校学習指導要領解説道徳編をもとに道徳科の目標、意義、培う資質能力、道徳科内容項目の指導の重点をもとに事例をあげながら幅広く学ぶ。教科書教材をもとに授業設計、教材研究、評価、指導案作成等、模擬授業を通して特別の教科道徳と道徳教育全般について学ぶ。また、知識のみではなく、現場のニーズに応えられるようお互いに評価したり、討論したりすることを通して授業力の向上を図る。

【児童福祉Ⅰ】

近年、児童虐待などの子どもをめぐる問題が多発し、社会問題としてクローズアップされている。特に、最近の社会情勢の変化は、家庭生活に大きな影響を与え、児童福祉に対しても同様に影響を及ぼしている。本講義では児童虐待といった問題を含め、児童福祉の理念、仕組み、実施サービス等について概説し、児童福祉の体系を理解していく。さらに、福祉の現場で対人援助に当たろうとする者に必要とされる基礎的な考え方や知識、態度についても習得する。

【保育内容総論】

保育の基本と保育内容・方法について理解することを目的とする。領域毎に示される保育内容を総合的に捉える視点を養い、保育の全体構造の理解に基づいて、子どもの理解や保育方法について学び、発達過程に即して子ども理解を深める。また、総合的に指導・援助を行う実践的な力を習得するために、具体的な保育活動事例について演習形式で学ぶ。さらに、各領域の視点を生かしながら保育を実践する際の留意点について学び、具体的方法について理解を深める。

【保育内容（音楽表現）】

保育現場で音楽表現を行う際に必要な基礎知識と技能を身に付けることをねらいとしている。①手遊び、②リズム表現、③身体表現、④オペレッタの4つの音楽表現を取り扱うこととする。最終的には4つの音楽表現の中から1つの演目を選択し、園児・保育者を対象とした成果発表会を行う。発表会を通して、表現の基礎を身に付けるとともに、子どもに対し音楽表現を行うことの意義を体感することを目的とする。

【子ども保健学Ⅰ】

子どもに関わる職種において、子どもの健康の保持・増進、健康状態の変化を察知することは重要な責務である。

子ども保健学Ⅰでは、それらに必要な知識についてさまざまな角度から学習する。また胎生期を含めた、子どもに必要な医療・福祉・母子保健行政について学ぶ。

【障害児保育】

この科目は、障害児やその他の特別な配慮を必要とする子どもに焦点を当て、保育の仕組みや支援体制について理解を深めることを目的とする。そのため、障害児保育の基盤となる理念や歴史の変遷、さまざまな障害の特性と援助、そして家庭への支援や関係機関との連携・協働などについての知識を身に付けること、さらに、知識を実践につなげるため、設定された事例について、保育現場における支援計画を作成することを目標とする。

【障害者教育総論Ⅰ】

特別支援教育とは、障害のある幼児児童生徒が必要とする教育ニーズに応え、一人一人の能力や可能性を伸ばすために、さまざまな方法を用いて適切な教育を行うものである。この授業では、特別支援教育の導入として、障害のある幼児児童生徒の学習を支えていく仕組み（特別支援学校・特別支援学級など）をはじめ、障害理解・学習支援・生活支援など、特別支援教育に係る基本的な内容について学ぶ。

【障害者の病理・保健】

リハビリテーション・ハビリテーションの観点から、障害児者の支援のためにはさまざまな障害・疾患が生じる病理についての知識を獲得し、理解を深めることが重要である。特別支援教育の場で出会う子どもたちの疾患や障害の状態、個々の感覚特性の理解を中心に、障害者保健に基づいた適切な支援の在り方を身に付けることを目的とする。

【軽度発達障害教育総論】

軽度発達障害教育総論では、発達障害者支援法に示される「発達障害」について理解を深め、発達障害児の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を考える。具体的には、通常の学級に在籍する自閉症スペクトラム障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障害の特性等を理解し、一人一人の合理的配慮の提供を考える。

【教職実践演習（初等）】

大学4年間で学んだ教職の意義、教育の基礎理論、教育課程及び指導法、児童・生徒指導等に関する知識・技能と教育実習等で得られた教科指導力や児童・生徒指導力等実践力との更なる統合を図り、子ども理解や教師の役割機能に対する理解を基盤とした確かな実践的指導力を有する教員としての資質の構築とその定着を目的とする。主な授業の形態は、講義や演習、発表、ロールプレイ等を組み合わせ、実際の教育現場を想定した教育課題を取り扱う。